

# 美作市 学校施設の長寿命化計画



令和 8 年 3 月

美作市教育委員会

## (1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

### ① 背景と目的

美作市は平成17年3月に周辺6町村が合併、誕生して現在に至っています。学校施設においては、旧町村単位で各々整備されましたが、昭和40年代をピークにその後は人口減少に伴う児童生徒数の減少に合わせて統廃合が繰り返されています。施設の経年に伴い昭和40年代～平成7年までの築30年以上経過した老朽化施設が45棟(4.5万㎡)、全体の71%を占めております。近年においても一部の中心部エリアを除いて過疎化は収まらず、将来的にも人口減少・少子高齢化・児童生徒数の減少が予想され大きな課題になると推測されます。

前述の期間に整備された学校等の老朽化施設については今後、大規模改修や建て替えに多額の費用が必要になると考えられており、これらの適正な維持管理も含め、他自治体と同様に課題となっています。

本計画は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化し、適正に改修・建て替えするとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら改修・建て替え等を検討するための詳細診断の優先順位を設定しつつ、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

なお、本計画は美作市公共施設等総合管理計画に基づく学校施設の個別施設計画として位置づけるとともに、施設整備計画は本計画に基づき策定していくこととします。

### ② 計画期間

令和 8 年～令和 47 年 ( 5 年ごとを目処に見直し)

令和8年度から令和47年度までの40年間を計画期間とします。

実施・実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、PDCAサイクルによる実行システムを構築します。

健全度点数、築年数並びに安全性等を考慮し、今後の整備計画を組立てていきます。

直近5年の計画につきましては、後述の様式6-1を参照願います。

本計画については5年ごとを目処に見直します。

### ③ 対象施設

令和7年5月現在

学校	
小学校	8校
中学校	5校
幼稚園・認定こども園	5園
保育園	
保育園	2園
給食センター	
給食センター	3施設

## (2) 学校施設の目指すべき姿

(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 平成25年3月)より抜粋

### 1. 安全性

#### ○災害対策

- ・地震、津波、洪水、地滑りに強い学校施設。
- ・防災機能を備えた学校施設。

#### ○防犯・事故対策

- ・安全で安心な学校施設。

### 2. 快適性

#### ○快適な学習環境

- ・学習能率の向上に資する快適な学習環境。
- ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また地域の人々が誇りや愛着を持つことができる学校。
- ・バリアフリーに配慮した環境。
- ・子どもたちや保護者等が利用しやすい空間。

#### ○教職員に配慮した環境

- ・教職員に配慮した空間スペース。
- ・教職員の事務負担軽減などの為の校務の情報化に必要なICT環境。

### 3. 学習活動への適応性

#### ○主体性を養う空間の充実

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
- ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間。
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間。
- ・社会性を身につける為の空間。

#### ○効果的・効率的な施設準備

- ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間。
- ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間。
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。
- ・各教科等の授業を充実させるための環境。

#### ○言語活動の充実

- ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間。
- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。

#### ○理数教育の充実

- ・充実した観察・実験を行うための環境。

#### ○体育教育の充実

- ・充実した運動が出来る環境。

#### ○伝統や文化に関する教育の充実

- ・伝統や文化に関する教育を行うための環境。

#### ○外国語教育の充実

- ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間。

#### ○学校図書館の活用

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
- ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間。
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。
- ・地域に開かれた学校とするための環境。
- ・地域における生涯学習の活動拠点となる学校施設。

#### ○キャリア教育・進路指導の充実

- ・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境。

#### ○食育の充実

- ・食育のための空間。

#### ○特別支援教育の推進

- ・発達障害を含む多様な特性をもつ児童生徒が、安心して学習できるユニバーサルデザイン化された学校施設。

#### ○環境教育の充実

- ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール。

### 4. 環境への適応性

- ・環境を考慮した学校施設(エコスクール)。

### 5. 地域の拠点化

- ・安全で安心な学校施設。
- ・バリアフリーに配慮した環境。
- ・地域に開かれた学校とするための環境。
- ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設。

## (3) 学校施設の実態

## ① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

## 1) 対象施設一覧

令7年5月1日 現在

	名 称	住 所	児童生徒数(人)		学級数(学級)		
			通常学級 在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援	
小 学 校	1	勝田小学校	美作市真加部1366	49	8	6	2
	2	勝田東小学校	美作市大町64	28	0	3	0
	3	大原小学校	美作市下町326-2	122	6	6	2
	4	美作北小学校	美作市檜原中60	288	32	11	5
	5	美作第一小学校	美作市湯郷58	205	30	8	5
	6	江見小学校	美作市江見573	106	18	6	3
	7	土居小学校	美作市土居203	34	1	4	1
	8	英田小学校	美作市福本935	62	10	6	2
小学校 計				894	105	50	20
中 学 校	1	勝田中学校	美作市真加部1575	37	4	3	1
	2	大原中学校	美作市下町350	77	3	3	2
	3	美作中学校	美作市三倉田205	249	15	9	2
	4	作東中学校	美作市江見226-2	75	5	3	2
	5	〃 分教室	美作市江見945	15	-	3	-
	6	英田中学校	美作市福本730	32	6	3	2
中学校 計				485	33	24	9
小・中学校 合計				1,379	138	74	29
	名 称	住 所	園児数(人)		教室・保育室数(室)		
幼 稚 園 ・ 認 定 こ ど も 園	1	土居幼稚園	美作市土居174	6	3~5歳児	1	3~5歳児
	2	むさしこども園	美作市宮本82-1	73	0~5歳児	6	0~5歳児
	3	美作北こども園	美作市檜原中277-1	160	0~5歳児	11	0~5歳児
	4	湯郷こども園	美作市湯郷67-1	134	0~5歳児	11	0~5歳児
	5	英田こども園	美作市福本636-3	47	0~5歳児	6	0~5歳児
幼稚園・認定こども園 計				420		35	
保 育 園	1	勝田ひまわり園	美作市真加部20-3	48	0~5歳児	5	0~5歳児
	2	江見保育園	美作市藤生19-1	61	0~5歳児	6	0~5歳児
保育園 計				109		11	
	名 称	住 所	対応学校		給食作成数(概算人)		
給 食 セ ン タ ー	1	美作給食センター	美作市三倉田210	勝田小・勝田東小・美作北小・美作第一小 英田小 勝田中・美作中・英田中		1,240	
	2	作東給食センター	美作市江見226-1	江見小・土居小・土居幼 作東中		300	
	3	英北給食センター	美作市下町494-6	大原小・大原中		260	
給食センター 計						1,800	

## 2) 児童生徒数及び学級数の変化

## &lt;児童生徒数&gt;

(人)

	これまでの推移									将来推計			
	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
	昭60	平2	平7	平12	平17	平22	平27	令2	令7	令12	令17	令22	令27
小学校児童数						1,425	1,324	1,101	999	700	600	500	400
中学校生徒数						754	718	631	518	500	450	400	350
合計						2,179	2,042	1,732	1,517	1,200	1,050	900	750

## &lt;学級数&gt;

(学級) 特別支援学級数は含まず。

	これまでの推移									将来推計			
	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
	昭60	平2	平7	平12	平17	平22	平27	令2	令7	令12	令17	令22	令27
小学校						70	63	54	50	42	40	38	35
中学校						27	27	24	24	21	20	18	18
合計						97	90	78	74	63	60	56	53

※平成21年度以前については、関係資料廃棄済で調査不能に付き未記入。

※将来推計については、過去15年間の推移から推計。

## 【小中学校】

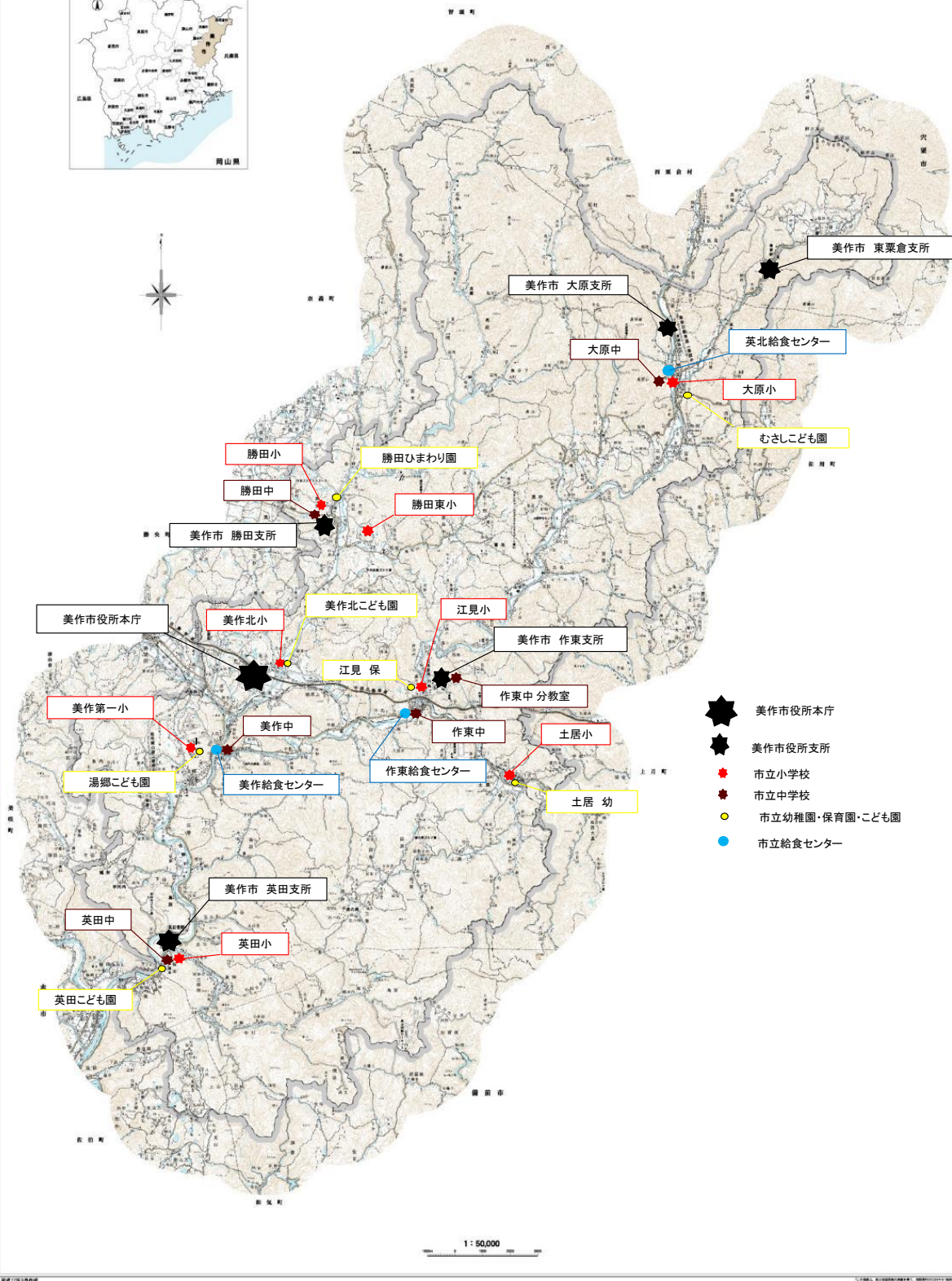
市立小中学校の児童数は、令和7年5月1日現在小学校児童999人(50学級)、中学校生徒518人(24学級)です。昭和40年代のピーク時の20～30%と推定されます。

(令和2年度から5年間で小学生-102人、-4学級 中学生-113人、学級数変わり無し。)

将来的にも今までと同様に児童生徒数の減少は続くと推定されます。

3) 学校施設の配置状況

# 美作市全図



4) 施設関連経費の推移

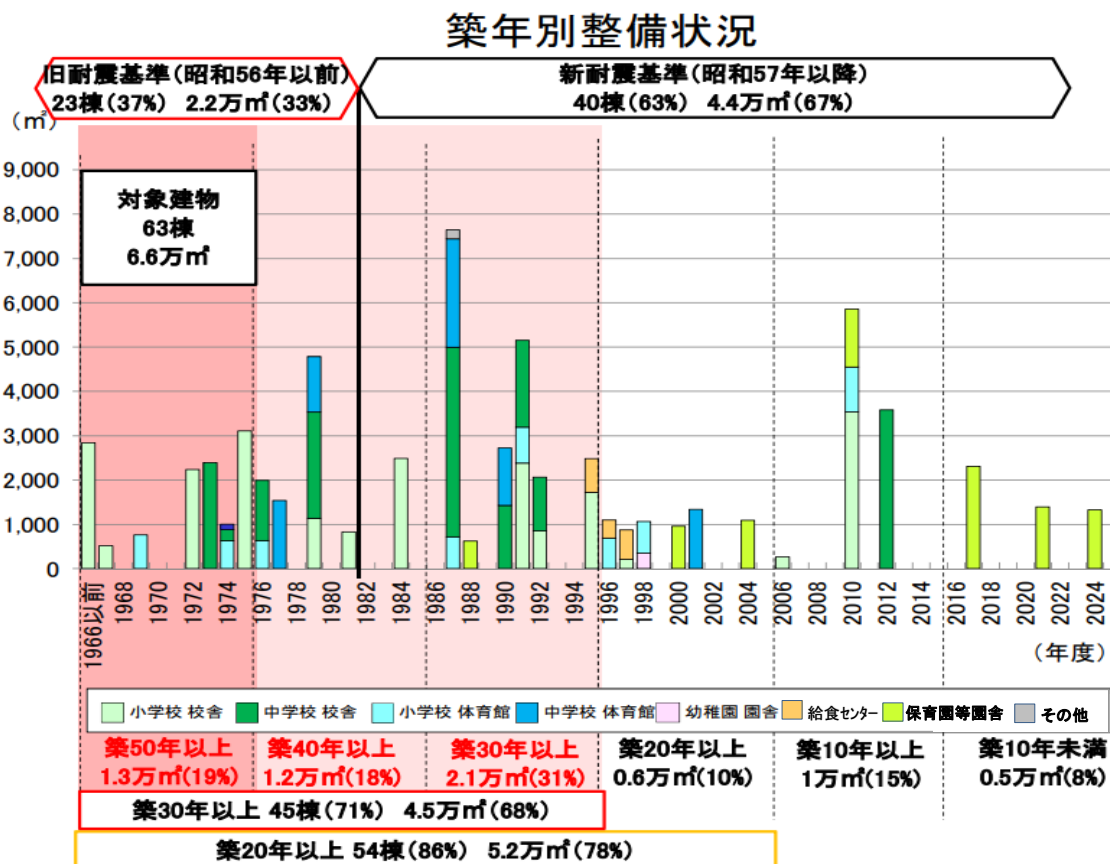
(千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年平均
施設整備費(新・改築、改修)	62,715	51,755	4,633	482,172	1,760	120,607
その他施設整備費	21,522	21,483	23,782	62,703	120,010	49,900
経常修繕費	13,597	11,173	13,428	9,484	11,538	11,844
維持管理・光熱水・委託費等	115,722	133,658	163,262	165,777	172,863	150,256
施設関連経費合計	213,556	218,069	205,105	720,136	306,171	332,607

- ※1 令和7年度関連経費は予算額をベースとしています。
- ※2 維持管理・委託費の令和3～5年度は令和6年度実績を参照し、各年度に遡り、同額参入しています。
- ※3 英田幼稚園・英田保育園については、令和6年度から英田幼稚園、令和7年度から英田こども園に変更。
- ※4 英田幼稚園の新築費用は単年度発生として計上しています。(土地取得、家屋解体は含まず)。

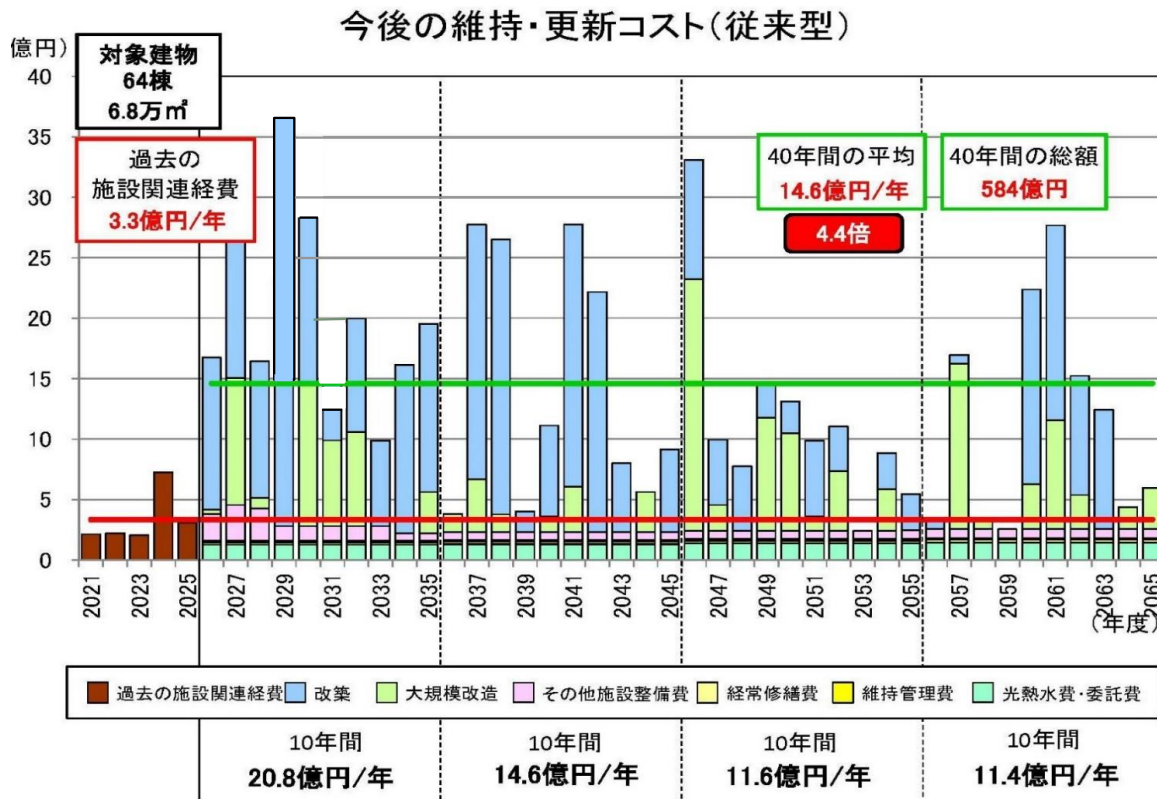
令和3～7年度の5年間の学校教育施設の施設関連経費は、約2.1億～約7.2億で、**5年間の平均は約3.3億円/年**となっています。令和6年度は英田幼稚園の建設費を、令和6～7年度は小中学校の特別教室空調機器設置費算入の為、金額が突出しています。(過去10年間の平均は約4.4億円/年)

5) 学校施設の保有量



築40年以上の施設が26棟約2.5万㎡存在、既に改築時期を迎えています。  
更に築30年以上40年未満の施設を加えると45棟約4.5万㎡となります。  
**この先10年間に施設の約7割が改築時期を迎えます。**

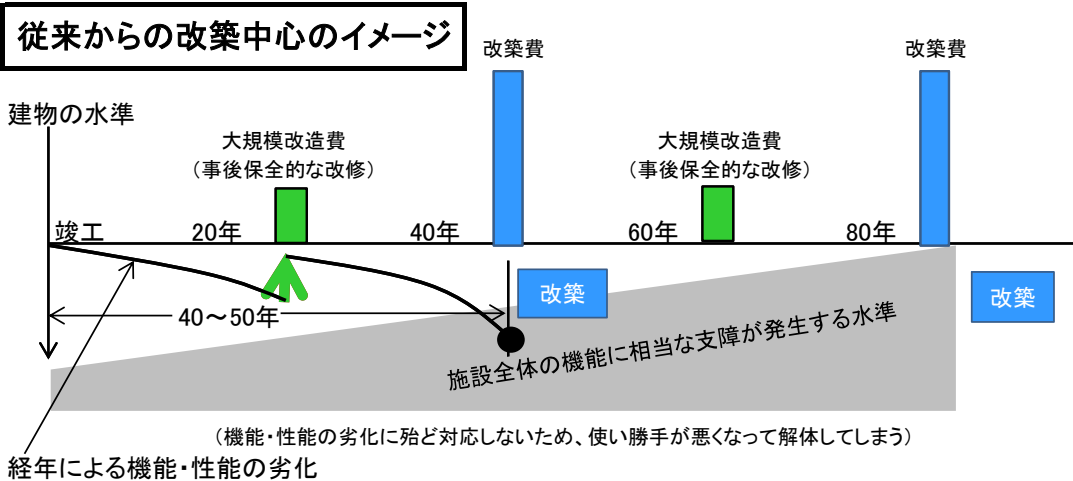
6) 今後の維持・更新コスト (従来型)



※改築単価は550,000円/㎡として算定。

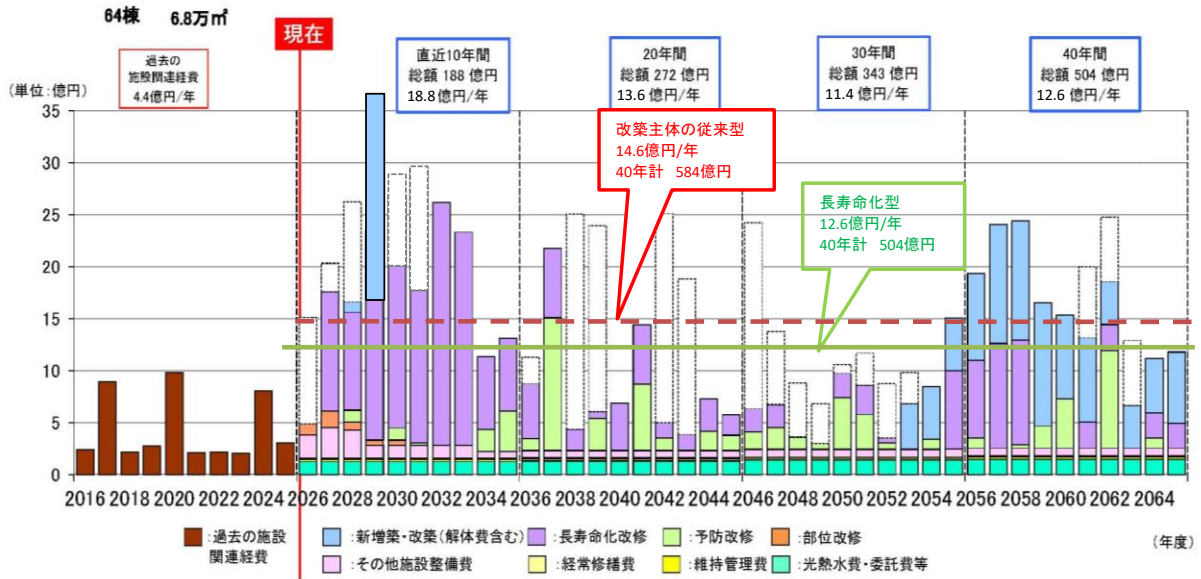
従来の維持・更新手法では前半の20年間に改築施設が集中しており、対応してこの期間に係る費用も膨大になってきます。

**40年間の総額は584億円、平均14.6億円/年間。**





2) 今後の維持・更新コストの把握 (長寿命化型)

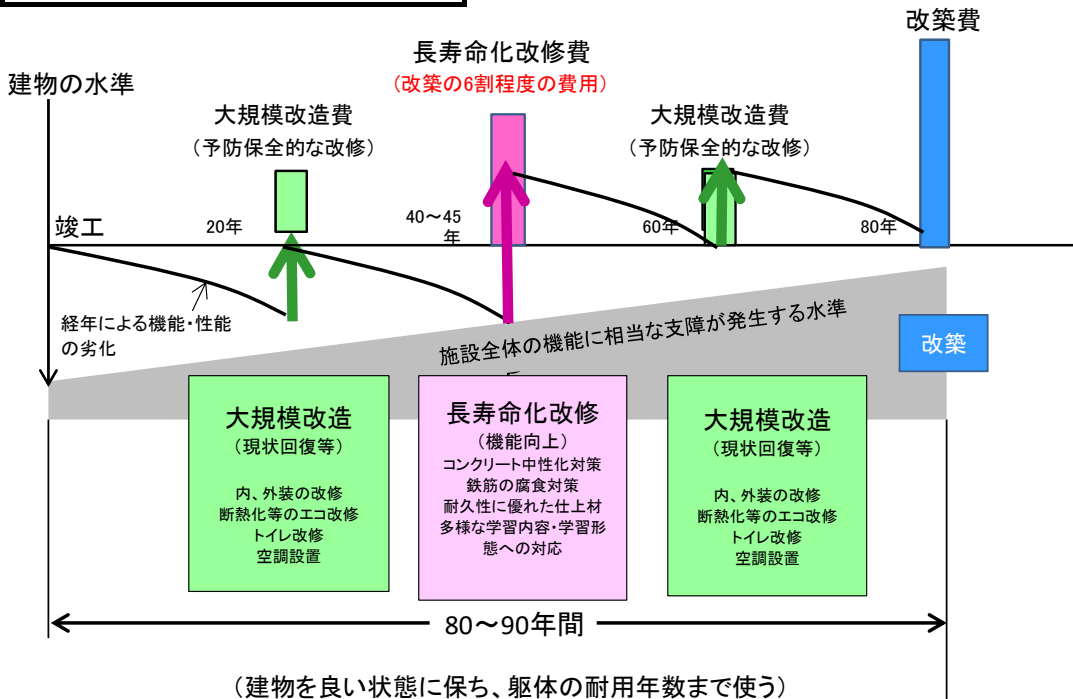


※改築単価550,000円/㎡、長寿命化改修単価330,000円/㎡として算定。

長寿命化改修を取り入れた維持・更新手法により、施設の長寿命化、係る費用の平準化、総費用の縮減を図ることができる。

**40年間平均12.6億円/年間(従来型比較-2億円/年間)**

長寿命化のイメージ



(4) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設等総合管理計画の  
基本方針

①点検・診断の方針

日常点検・定期点検などにより、老朽化対策等に活用します。

②維持管理・更新の方針

ライフサイクルコストの抑制や維持管理・更新に係る費用の節減に努めます。

③安全確保の方針

施設の安全性について評価し、改修や廃止を検討します。

④長寿命化の方針

予防保全型の補修作業を行い、施設の長寿命化を目指します。

⑤統合・廃止の方針

施設の利用度、稼働率が低い施設、また、施設の特性、費用対効果などを踏まえながら、施設の統合・廃止を検討します。

⑥保有財産の活用や処分の方針

余剰施設が生じた場合は、施設の転用や売却、解体等を検討し、施設の適切な活用と処分を推進します。

公共施設等総合管理計画の  
施設類型別方針

施設の現状を診断、把握し計画的改修を行い、長寿命化を図る。  
余裕教室の複合化を検討する等、有効活用を図る。

【小中学校】 【幼稚園】  
【認定こども園】 【保育園】

よりよい教育環境整備のため、地域実情に応じた適正な施設配置を進め、  
施設の更新や大規模改修時には、適切な施設規模や仕様を検討します。



学校施設の長寿命化計画の  
基本方針

小中学校の規模の適正化と適正配置の推進。  
現状を把握し、計画的改修、維持修繕を行い、長寿命化を図る。

大規模改修、改築時には、小規模校や将来、児童生徒数が減少する学校  
は、機能を集約・複合化し、地域のコミュニティと防災の拠点化を検討する。

幼稚園・保育園についても、利用者ニーズや建物状況を勘案し、施設の集約  
化や他の公共施設への転用について検討。また、周辺の公共施設更新時に  
複合化も検討します。

## 2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

## 学校施設の活用方針・適正配置の方策

## 美作市立小中学校の再編方針

少子化の進行に伴い、規模の適正配置や教育環境の維持向上を図るため、学校再編に関する現状、課題、義務教育学校等の考えられる選択肢について、客観的かつ具体性のある情報を地域や保護者に提供し、検討への参画を促し、合意形成を重視したプロセスにより再編計画の推進を行います。

## 1) 現状の規模や機能を維持する学校・園・施設

在籍人数の多い学校や園、或は地域の特別な事情、並びに施設の老朽化等を考慮し、候補施設を検討していくこととする。

- 教育方法や内容等の変化に適応させる
- 余裕教室等の空きスペースの有効活用
- 保有施設の内、不用となった部分の「減築」

## 2) 現状の規模や機能を維持しつつ、他の公共施設との複合化・共用化を検討する学校・園・施設

在籍人数が中規模の学校や園、将来の人口予測、或いは地域の特別な事情や公共公益施設の設置状況、並びに施設の老朽化等を考慮し、候補施設を検討していくこととする。

- 学校施設の地域内核化
- 地域実情に応じて、文教施設や高齢者福祉施設等の公共公益施設との複合化・共用化

## 3) 統廃合を検討する学校・園・施設

人口減少等、地域の特別な事情により、学校や園について、統廃合の提案が地元の方からなされる場合、施設の統廃合等を計画していくこととする。

② 改修等の基本的な方針

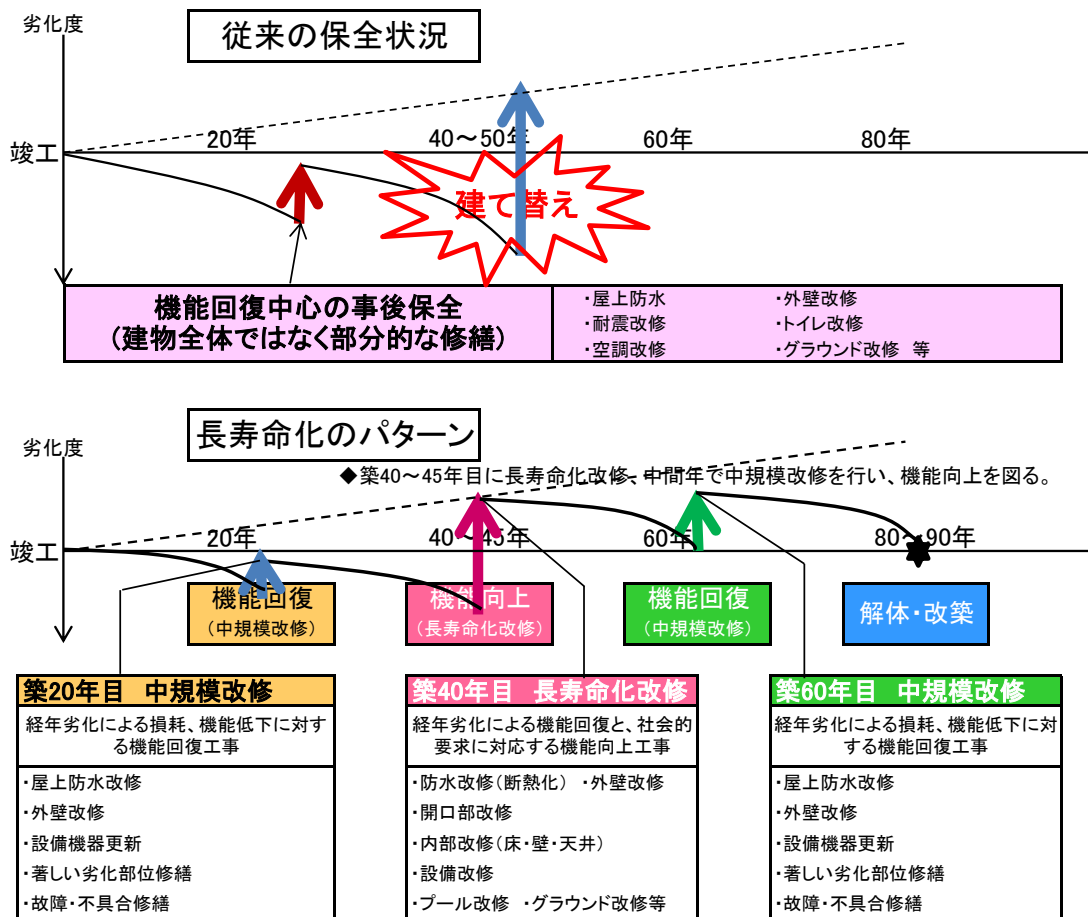
1) 長寿命化の方針

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現させるため、以下に示すような建物を除き、**改築より工事費が安価で工期が短く、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修**への転換を図るものである。

- ・鉄筋コンクリートの劣化が激しく、多額の改修費用がかかり改築した方が安価となる建物。
- ・コンクリート強度が著しく低い建物(概ね13.5N/mm<sup>2</sup>以下)。
- ・基礎の多くの部分で鉄筋が腐食している建物。
- ・校地環境の安全性が欠如している建物。
- ・建物配置に問題が有り、改修によっては適切な教育環境を確保できない建物。
- ・学校の適正配置など地域の実情により改築せざるを得ない建物。

なお、改築せざるを得ない建物が有った場合には、それまでの期間に応急的な保全を行う等、当面の安全性・機能性等を確保することとする。

**今後は、建て替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、部位修繕を併用した整備を行うこととする。以下に長寿命化改修を実施した場合の修繕・改修周期を示す。**



2) 目標使用年数、改修周期の設定

	目標使用年数	中規模改修の周期	長寿命化改修の周期
校舎	80~90年	築 20年/60年	築 40~45年
体育館	80~90年	築 20年/60年	築 40~45年

### (5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

#### ① 改修等の整備水準

構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的要求に応じるための改修について下表により仕様を設定します。

		省エネ型	長寿命化改修	現状の整備水準
部位		改修メニュー(整備水準)		
		高		低
外部仕上	屋根 屋上	外断熱保護防水(断熱材50mm) 鋼板葺き替え(GL鋼板・断熱工法) (既存撤去)	塩ビシート防水(断熱材25mm) 鋼板葺き(遮熱塗装上塗り) 鋼板上葺き(GL鋼板) (既存の上)	シート防水 塗膜防水 鋼板葺き(塗装上塗り) (断熱無し)
	外壁	外壁塗装 (防水型複層塗リ材)		外壁塗装 (複層薄塗リ材)
	外部 開口部	外断熱	内断熱	断熱無し
	外部 開口部	アルミサッシ交換 (カバー工法・取替え等) (複層ガラス等)	既設サッシのガラス交換 (複層ガラス等)	
その他 外部	その他 外部	日射抑制措置(ライトシェルフ庇)	底等の設置無し	
	その他 外部	手摺り等の鉄部塗装		
内部仕上	内部仕上 (教室等)	内装の全面撤去・更新 (木質化)	床補修 壁・天井塗り替え	既存のまま
	便所	内装の全面撤去・更新	床補修 壁・天井塗り替え	既存のまま
設備 配管・ 配線・ 機器	給排水 配管 受水槽	配管の全面更新(耐震化・露出仕様) 受水設備更新	配管の 部分更新	既存のまま
	電気・弱电 通信等 配線	各種配線の全面更新(露出) 受電設備更新	各種配線の部分更新 キュービクル更新	既存のまま
	照明器具	照明器具の 全面更新	照明器具の部分更新	既存のまま
	空調機器	高効率空調機に更新	未設置教室への設置	既存のまま

長寿命化改修に向けた、社会的要求水準の高まりを考慮した検討ポイント。

学習環境	多様な学習の場	ICT教育	
生活環境	トイレのドライ化	木質化	
省エネ化	太陽光発電	LED照明	高気密・高断熱
バリアフリー	エレベーター	多目的トイレ	点字ブロック
防災・防犯	自家発電	防犯監視	マンホールトイレ カマドベンチ

② 維持管理の項目・手法等

点検チェックリストの凡例を示します

5 年ごとに点検を実施

通し番号	〇〇		
学校名	〇〇小学校	学校番号	〇〇〇
建物名	〇〇校舎	調査日	令和 年 月 日
棟番号	〇〇	記入者	〇〇〇〇
構造種別	R	建築年度	昭和59 年度( 1984 年度)
	延床面積	1,282 m <sup>2</sup>	階数
			地上 2 階 地下 0 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根・屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水	(H22) R5	防水改修 渡り廊下屋根改修	<input checked="" type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある	1	●瓦材の表面 塗装劣化、冠 瓦スレ。 ●屋上突起コン クリートの劣化、 ひび割れ。	C
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input checked="" type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある	1		
	<input checked="" type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input checked="" type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある	全般		
	<input checked="" type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input checked="" type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある	多数		
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ( )			<input type="checkbox"/> 樋やルーフィングを目視点検できない			
2 外壁	<input checked="" type="checkbox"/> 塗仕上げ			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある		●RC躯体の大 小ひび割れ多 数。 ●手摺や鉄骨 部材の腐食全 般。	C
	<input checked="" type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input checked="" type="checkbox"/> 塗装の剥がれ	数箇所		
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input checked="" type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている	広範囲		
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ( )			<input checked="" type="checkbox"/> 大きな亀裂がある	多数		
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修			B
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ改修	(H28)	洋風化	
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input checked="" type="checkbox"/> 校内LAN	R2	GIGA	
	<input checked="" type="checkbox"/> 空調設置	H30	普通教室	
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
	<input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策			
	<input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策			
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			B
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検			
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水管改修		地中給水の度重なる漏水が継続。	D
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input checked="" type="checkbox"/> 消防設備の点検	不明		
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			
	<input type="checkbox"/>			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

●内外共にRC躯体のひび割れが多数有り。又モルタル塗りの浮きも所々有り。

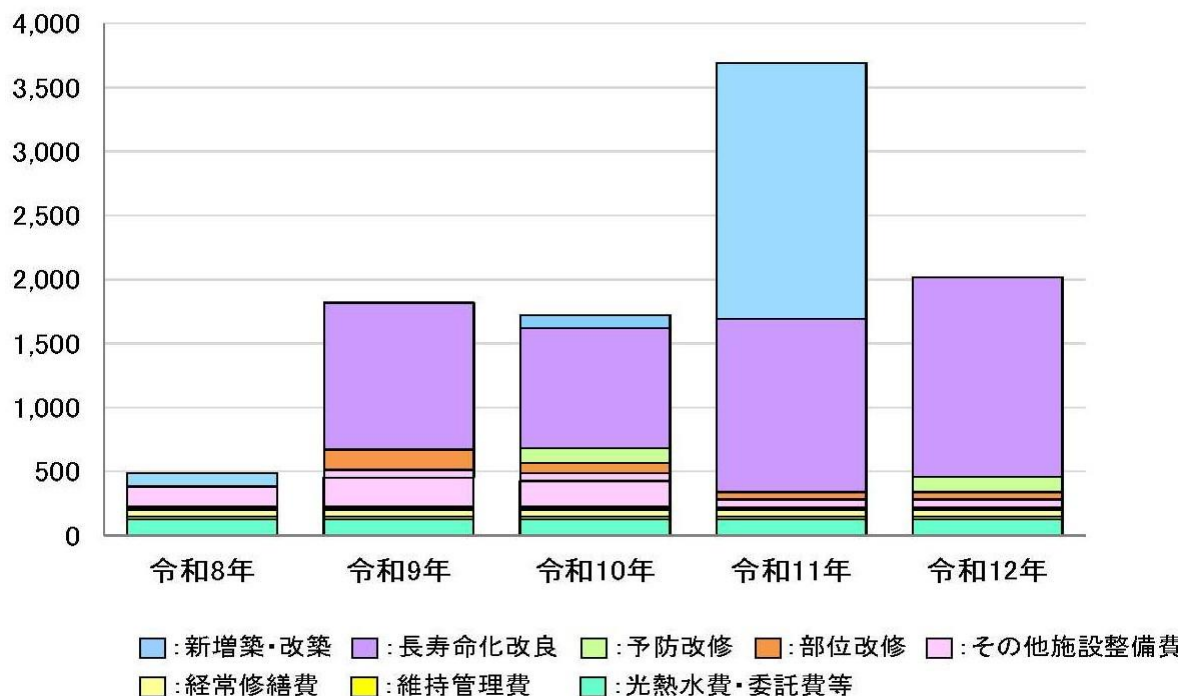
- 屋根外周部、瓦の劣化が著しい。
- 窓廻り等コーキング劣化。
- 渡り廊下等屋外露出鉄骨部材の発錆。

健全度
49 / 100点



(6) 長寿命化の実施計画

直近の整備構想



<ul style="list-style-type: none"> <li>過去10年間の施設関連経費は平均4.4億円/年であるが、築40年以上の老朽施設比率が高く且つ大規模改修等が手薄な状態にあった為、早期に長寿命化改修或は改築に着手する必要が有ります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>直近5年間の計画は長寿命化計画40年間の平均12.6億円/年を基に、長寿命化改修を中心に改築・部位修繕(緊急性を要する部位(学校))並びに新給食センター建設も加えて、学校の適正配置計画も見据えながら実施します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>築年数、躯体の劣化状況、コンクリート強度、立地条件等を考慮し、<b>美作第一小・英田小・美作北小等</b>は改築も今後の検討課題です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>予算配分の考え方として、其他施設整備・維持修繕・光熱水費等経費を除く約10.4億円/年(年平均工事費)の内、これまでの実績から一般財源は約半分の5.2億円/年と推定されます。また、財源については、国の補助金や過疎対策事業債等の起債、公共施設等整備基金など、適切かつ効果的に活用し、財政負担を軽減します。</li> </ul>

**健全度点数、築年数並びに安全性等を考慮した実施計画であり、今後、学校再編計画の進捗等により、変更を行う場合があります。**

## ② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～

40年間の計画は、長寿命化による維持・更新コストの総額504億円を極力平準化します。今後はこれまでの投資的経費4.4億円/年と比べ、平均約12.6億円/年と2.9倍となります(最大36.9億円)。本市における計画では建設時期が比較的集中しているため、平準化の度合いが低いので、長寿命化や改築時期の一部を先送り又は前倒し等も検討の必要があります。なお、計画の前半約10年は長寿命化改修が集中し、後半約10年は改築が集中する計画になります。

今後の学校施設の維持・更新コストは、前述の通り長寿命化しても過去10年間の投資的経費(約4.4億)の約2.9倍に増加すると見込まれます。児童生徒数が減少する中で施設の維持・更新費用が増加するという矛盾を抱えており、①施設保有の在り方、②維持・更新コストの削減、③財源確保は大きな課題となってきます。

個々の学校施設の長寿命化(保全計画)だけでは限界があることから、財政制約ラインとコストのかい離を埋めていくため、財政制約の引き上げ、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取り組み方針を明確にする必要が有ります。

## (7) 長寿命化計画の継続的運用方針

## ① 情報基盤の整備と活用

施設の基本情報、光熱水費をはじめとする運営経費、過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースに蓄積し一元管理するとともに、12条点検等の法定点検結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新を行っていきます。

## ② 推進体制等の整備

長寿命化計画を継続的に運用していくため、学校施設の所管課である教育委員会教育総務課を中心に、全庁的な体制で、本計画を含む学校施設のマネジメントを行っていきます。

また日常の施設管理の質を向上するため、次のような支援体制や各種報告書を活用して不具合箇所の早期把握と対応を図っていきます。

## 1) 日常的な施設管理に対する支援体制(案)

- ・技術職員の兼務・併任による営繕担当部局等との連携。
- ・地方公共団体間の広域連携。
- ・退職した技術職員の会計年度任用職員としての採用 ・県からの職員派遣など技術的指導、支援。
- ・民間事業者への委託(学校単位or全校包括委託等)。
- ・研修などを通じた職員の知見の習得や意識啓発。
- ・施設管理マニュアルの整備(技術者向け、学校管理者向け)。

## 2) 計画の進捗管理に対する支援体制

- ・教育委員会と首長部局との全庁横断的な検討体制。
- ・財政との連動。
- ・人口推計、他の公共施設の整備状況との整合、調整。

## ③ フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建て替えの優先順位を設定するものであり、美作市公共施設等総合管理計画の中で、年次及び個別の事業費を精査していきます。また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して、本計画は見直しを図るものとします。